

CAR-T(カーティ)細胞療法について

ニャンコ先生

自身の免疫細胞(T細胞)を改変し、がん細胞を特異的に攻撃させる免疫療法です。骨髄移植は、白血病、再生不良性貧血などの血液難病において、機能しなくなった骨髄を健康なドナーの造血幹細胞と入れ替え、正常な血液(赤血球、白血球、血小板)を再び作り出すための根治治療です。大量の抗がん剤などでがん細胞を死滅させた後、健康な造血機能を取り戻すために不可欠な医療プロセスです。

CAR-T(カーティ)細胞療法の仕組みは患者から血液(T細胞)を採取し、特定の癌抗原を認識するCAR(キメラ抗原受容体)遺伝子を導入。活性化・増殖させた細胞を再び患者の体内に戻します。対象疾患は急性リンパ性白血病、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫、多発性骨髄腫など、一部の血液がん。従来の治療が効かない再発・難治性症例に対し、高い完全寛解率を示しています。

また、本治療法は保険適用を受けていますので投与時だけで約3,000万~3,600万円以上かかりますが高額療養費制度(法が改正されなければ)の対象です。副作用はサイトカイン放出症候群(CRS)や神経毒性(ICANS)が挙げられ、重症化すると命に関わるため、専門的な集中管理が必要です。

ここからは私の個人的な意見です、がん治療の第4の柱として免疫治療が確立されるかもしれませんが現在は費用が掛かりすぎます。そこで提案ですが国の予算の軍事費9兆円を半減し、医療費その他へ回します。日本は世界唯一の被爆国です。今のままでは地球そのものの存続が危ぶまれます。ならば世界唯一の軍隊を持たない国になる、(自衛隊は災害、山火事等の時お世話になっているので必要)、夢かな



気分を変えてみる

岡ちゃん

暖かい日が多くなり、活動したくなる毎日。同時に季節の変わり目は体調が思うようにならない場合がある。

気温差に対応できず自律神経が乱れるのも理由の一つだ。

倦怠感が強く身体が重いときは、無理をせずに家で過ごすようにしている。がんの手術の影響か、加齢によるものかわからないが、動けないことをまず自覚して「休む」と決める。

ゆっくり休んで元気になったら、まずは家でできることをしてみる。

やらなければいけないことは優先順位を考え、その日中に出来ることを一つだけ決めている。体調にあわせて、時間をかけてゆっくり取り組む。達成できると、明日への活力が湧いてくるのだ。今日も出来たと思う日々を繰り返すことが、今のわたしの目標である。

家にいると本を読みたくなる。読書をする、5分でも癒しの効果があるとのこと。小説と漫画とか、新聞と雑誌など変わる替わる読むと気分を変えられる。家の読書は眠くなりやすいので、休憩をはさんでコーヒを飲むのもいい。とっておきのコーヒカップで飲むコーヒは、とびきり美味しい。

家で過ごす時間、お気に入りの雑貨を眺めたり模様替えをする。普段使わない素敵な食器で食事をする。掃除や読書、犬の散歩を楽しむなど、今の自分が楽しいと思えることをする。その瞬間は、身体の不調を考えない。

気分を変えて、自分らしい時間を見つけたいと思っている。

「推し」について描かれた小説2つ

うらちゃん

「推し燃ゆ」宇佐見りん R2 芥川賞受賞、「イン・ザ・メガチャーチ」R8 朝井リョウ 本屋大賞受賞 どちらも「推し活」がテーマの物語で興味深く、面白く読める。「推し」がいるから仕事、勉強、生活、面倒なあれこれ、何でも頑張れる。そんな人は珍しくない。私も中2から始まったアーティストたちへの熱狂は、対象のアーティストは様々に変遷を経ているが現在も続いている。ライブは、音源で聴くのと全く違う、歌い手のその日のコンディションがはっきり出てしまし、歌い方や全身の様子から、否が応でも熱量を感じてしまう。声は楽器と同じ、消耗品だそう。そしていつか限界が必ず来るという。そんなアーティストたちの全力を私は感じるために行く。大阪、名古屋、福岡、休みが許せば海外にも行きたい。来日した海外アーティストのチケットはべらぼうに高い。ただ、彼らがどんな人たちなのかどんなステージを見せるのかは、行ってみないとわからないのでやっぱり行ってしまふ。

ただ、〇〇が「推し」です。と私はなぜだか言えない。私は、そのアーティストの音楽以外のお喋りやプライベートには、全く興味がないのだ。紹介した2つの「推し」の物語は、自分の全てを「推し」に捧げている人がたくさん登場し、その善良な人々を利用する経済活動を描いている。イン・ザ・メガチャーチなどは、リアル過ぎて推し活をしている人は辛くなってしまふのではないかと心配になるほどだ。私の場合、推しではないと以前から感じていたのが、読んでみてははっきりしたこともある。それは、強大なたった1つの依存対象であり、金銭の注ぎ方、推しを喜ばせるための努力、情報収集、ファン同士の助け合いなど繋がりがすごいのだ。精神的にしんどい時、推し活は大変強い支えになる、癒しになる、活力になる。私も辛い時、何度も音楽に救われた経験があるからわかる。

でも、たった1つの依存先を失ったら、その人はどうになってしまう？

その先も小説は描いている。

人には、依存がとても大切。だけど依存先は複数持っていた方が安全かもしれない。依存先の分散。

岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」
sugamocafe.sakura@gmail.com
<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来
がん哲学外来市民学会

代表 西原光治
編集 浦川 慶子